



ろば

百人町教会

集会案内

礼拝：毎週日曜 午前10時30分
於 東京家政専門学校2階
聖書研究会：第1・3水曜 午後7時
於 石原宅

連絡先：〒162-0066 東京都新宿区
市谷台町14-1-701 賈晶淳 方
TEL/FAX 03-6273-2930

<http://www.hyakunincho-church.com>

郵便振替口座：00180-8-565379



私の目線（八六）

歩けるとどうしよう

新谷 照子

歩けなくなるといふ恐怖から解放されて、晴れた日には、早起きして夫と一緒に家の近辺を三キロ前後歩いている。坂あり階段ありの住宅街を鳥のさえずりを聴き、草花や木々を眺め、犬と散歩中の人と挨拶を交わしながら歩いている。手すり無しで階段の上り下りもできるようなった。どこも痛くない。

昨年九月に踏切で電車待ちをしている時に高齢の男性が運転している電動車椅子に追突され転倒した。ブレーキとアクセルの踏み間違いが事故の原因だった。幸い、加害者が保険に入っていたので、その後半年間治療を受けることができたが痛みはとれなかった。

四〇代後半から膝が痛むようになって正座ができなくなった。若い頃からテニス、登山などスポーツを楽しみ、仕事で重い荷物を持ち歩いてきたということもあって、膝の軟骨がすり減り変形性膝関節症に至る道を突き進んでいった。両膝の半月板損傷手術、左膝の骨切り手術、左膝の前十字靭帯再建手術と今まで四回膝の手術を受けてきた。「もうこれ以上手術を受けない」と決めて、鍼灸や整体の治療を受けつつ、何とか歩いていた矢先の事故だった。「歩けるか、歩けないか」で予定を決め、行動していた。夢中になっていて痛みを忘れることはあるが、歩く時は常に膝が痛かった。いつか歩けなくなるといふ強迫観念

で痛くても歩くようにした。

それでも変形が進み、事故に遭い、痛みが増していく状況を考えると手術しかないと考えようになった。歩く姿を見て人から、「足が痛いのですか？」と声を掛けられることも多くなった。

コロナ禍で院内感染の心配もあったが、四月一六日に両膝の人工関節置換手術を受けた。同時に両膝の手術を受けたので思うように体を動かすことができず、苦痛の日々が続いたが、手術の翌日からベッド上で膝の曲げ伸ばし、二日目からはリハビリ室でのリハビリも始まった。数日間はおムツを使用し、尿管も通してしていたので、車椅子に乗って、自分でトイレに行けるようになり、洗面台で洗顔や歯磨きができるようになった喜びは大きかった。一週間後には隣接するリハビリ病院に転院し、一日二回の理学療法と一回の作業療法を受けるようになった。今までできなかったことを実感する日々だったが、手術して小さなことだが、できることが一つ一つ増えて毎日喜びがあった。自分で入浴できるようになった。車椅子を自分で動かせるようになり、歩行器になり、杖になり、十日目には杖無しで歩けるようになり、退院前日には病院の外を二キロ歩けるようになった。

コロナ禍の今、自由に外へ飛び出すことはできないが、自分の足で行きたいところへ行けるようになった。何かできるかもしれないという希望を持てるようになった。

聖書の旅

マタイによる福音書一章二〇―二四節

賈 晶淳

新型コロナウイルスのため今年の休暇旅行は中止となり報告は出来ませんが、今日は皆さんと聖書の旅に出かけようと思います。どうぞ一緒に旅を楽しんでください。今日は聖書の地名を地図で確認しながら旅をするつもりです。新共同訳聖書の後部または別紙の付録の中から聖書の地図六番、「新約時代のパレスチナ」を参照してください。

地図の中央部には縦の方向にヨルダン川が表示されています。ヨルダン川の北側(上)にある湖がガリラヤ湖、南側(下)にあるのが死海です。ガリラヤ湖の水面は海拔マイナス二〇〇メートル、死海はマイナス四〇〇メートルのところを位置しています。そのため水はヨルダン川の北から南へ流れ、死海で行き場を失い蒸発します。死海の塩分の濃度は約三〇%で約三%の海水の一〇倍も高いため魚類は生殖できない文字通りの死の海です。西海岸には死海文書が発見されたクムランとマサダ要塞の跡が隣接しています。エルサレムは地図の下の尺度表示で比べますと死海から西へ約二〇キロのところにあります。町は標高七五〇〜八〇〇メートルのところにあります。もし死海からエルサレムまで行くとしますと一二〇〇メートルの山を登らなければなりません。

現在の地図ではヨルダン川を中心に東側(右

はヨルダン王国、西側(左)がパレスチナ西岸地区とイスラエルになります。新約時代のユダヤ人の主な地域は西側で、ガリラヤとユダヤ、それにサマリアです。

地図上の灰色の太い点線は支配地の区分です。このように分割する前にこれらの全域を治めていたのはヘロデ大王で、紀元前三七年からローマ帝国の委任統治を行っていました。聖書にはイエスの誕生の時に子どもたちの虐殺者として登場します(マタイ二章)。年代のズレが少しありますがヘロデは紀元前四年に死にます。その後三人の息子に分割されます。ユダヤとサマリアを長男のヘロデ・アルケラオ王(マタイ二の二二)が、ガリラヤとペレアをヘロデ・アンティパス領主が、イトラヤとトラコンをヘロデ・フィリポ領主(ルカ三の一)が支配するようになります。この中で洗礼者ヨハネの殺害とイエスの裁判に関わりのあるのがヘロデ・アンティパス領主です。称号を王と領主に区別したのは聖書の表記に従ったことで、ローマがユダヤ・サマリア地域の支配者のみに王という称号を与えたからです。因みに領主は英語で *tetrarch*、四分の一の統治者を意味します。

長男のアルケラオ王は紀元六年に死亡し、その後暫くはローマの総督ポンティオ・ピラトによる直接支配となり、イエスの活動はこの時期に該当します。そして、イエス以後にアルケラオ王の息子ヘロデ・アグリッパ I 世(紀元三七〜四四年、使徒二二章)と孫ヘロ

デ・アグリッパ II 世(使徒二五、二六章)が王となります。この他にもう一人ローマ居住のベオトスがいいます(マタイ一四の三、記・フリポ)。ヘロデ・アンティパスの兄弟です。これで聖書には七人のヘロデが登場しますのでも混乱します。このベオトスの妻のヘロディアを兄アンティパスが奪い、元の妻を捨て再婚したことで、洗礼者ヨハネがヘロデを批判し続けたことが原因でヨハネは殺されます(マタイ一四の一以下)。

地図に戻りまして、洗礼者ヨハネが活動していたところは死海の北、ヨルダン川の東のベタニアです(ヨハネ一の二八)。そして、このベタニアと同名の町がエルサレムの近くにもあります。ここはイエスが親しくしていたマルタとマリアの姉妹、姉妹の兄弟でイエスが死から蘇らせたラザロが一緒に住んでいる町です(ヨハネ一一章)。

今度はガリラヤ湖の周辺を見たいと思います。湖の北の方にもヨルダン川が延びていますが川を基準に東のトラコンと西のガリラヤの二つの地域に分かれています。そして川の東にベトサイダが、西にカファルナウムの町があります。ベトサイダはイエスの最初の弟子、シモン(ペトロ)とアンデレの出身地です。川を挟み支配者が異なるというのはこの兩岸の町に通行税を取る収税所があったと考えられます。そして、カファルナウムのすぐ上にコラジンがあります。ガリラヤ湖で獲れた魚は先の二つの町に水揚げされ、塩漬け

されたものをコラジンから地中海の港町ティルスを経由し、ローマを始め地中海の沿岸都市で特産品として高価に売られたようです。そのためコラジンからティルスの間には貿易路があり、コラジンにも収税所があったと考えられます。即ち、これらの地域はイエスの主な活動の現場で多くの弟子が選ばれ、中何人も収税人が登場するもののような地域だからでしょう。今日の聖書には二一節には今の話と関連する地名が出ています。

コラジン、お前は不幸だ。ペトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていけば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。

ここに地中海岸の町ティルスやシドンが出ています。再び地図に戻ります。地中海に沿って上にシドンがあり、その下にサレプタがあります。ここは列王記上一七章のエリヤの物語の背景となる町です。その下にティルスがあります。この辺はフェニキアという地域になっていますが、紀元前四世紀までは大きな船団を持ち、地中海全域で支配的に貿易を行っていた国家でありました。マルコによる福音書七章三一節にはイエスがこの地域を訪ねたことが記されています。

それからまた、イエスはティルスの地方を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。

これまでの話と合わせながら地図を見ます

とこの巡回の道程の出発と到着地をカファルナウムとすれば、行きはコラジン経由でティルスへ行ったという推測ができます。

ここにデカポリス地方が出ています。ガリラヤ湖の南東に広がる地域を指します。この地域はヘロデー族と関係のない地域で、デカはギリシア語で一〇を意味し、ポリスは都市国家を意味します。この一帯には異邦からの移住者らが造ったヘレニズム的自治都市で一〇位あったことからこの名がつけられています。地図にゲラサが出ていますが、ここはレギオンという悪霊に取りつかれていた人をイエスが癒す話の背景となった町です(ルカ八章)。物語の中に人から出た悪霊が近くで飼われていた沢山の豚の中に入ったという話があります。ユダヤ人にとって豚は不浄の物であることからこの地域が異邦人の文化の下にあることが分かります。

今度はガリラヤ湖の西海岸沿いを見たいと思います。ティベリアスがあり、現在でも同じ場所に同名が残っている一帯では最大の町です。紀元二〇年頃にヘロデー・アンティパスが宮廷を建て、ガリラヤの首都にします。彼がこの自分が造った町に自分の名前ではない当時のローマ皇帝のティベリアスの名前を付けたのは、父親と同じく空席のユダヤ・サマリアを含む地域の支配者としての王の座を狙い、皇帝に媚びるためであったと思います。ローマの貴族のヘロディアを妻にしたのもこのことと関連があるかも知れません。

また地図には載っていませんがティベリアスとカファルナウムとの間にマグダラという町があり、そこは復活の朝にイエスの墓に行ったマグダラ・マリアの出身地です。

地図を見ますとガリラヤは湖だけでなく内陸部までの広い地域です。イエスの故郷ナザレは内陸深いところにあります。ガリラヤ全域はユダヤ・サマリア地方と同じく殆どが山地です。若いイエスや弟子であってもガリラヤの街々を移動するのは結構大変なことであったと思います。

今日の旅と関連する人々を示す聖句はルカによる福音書三章一節、二節です。

皇帝ティベリウスの治世の十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデーガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、アンナスとカイアフアとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリヤの子ヨハネに降った。

今日の旅の隠れ主人公である洗礼者ヨハネとイエスは活動中にこの地図の外へ一度も出ていません。しかし、この狭い地域の中で二人の活動環境は大きく異なります。ガリラヤ湖と死海、町村と荒れ野、それに生パターンの移動と固定、教えと洗礼、飲食と断食(ルカ五の三三)など、同時代に同じ神を信じる者同士でここまで異なるのは驚きです。この狭い地図上の空間は当時から、多様な生き方を経験できる宇宙的な環境であったに違いありません。(二〇二〇年八月二日証詞より)

ネットを利用しての礼拝と教会活動

小池 恵子

礼拝について

百人町教会は従来から礼拝に出席できない方のために礼拝の一部始終を録音し、終了後ホームページで配信してきた。コロナ禍により三月二十九日から一同が集まっていた礼拝を休止した。三月二十九日は買牧師が自宅で証詞を録音し配信、一〇時半以降私たちはそれぞれの家庭でそれを聴くことが出来た。この後買牧師は礼拝形態を新しく改造、四月十九日から、週報配信と同時に、過去の礼拝録音から前奏と讃美歌二つを選び配信、私たちはオルガンの音と共に礼拝を始め讃美歌も一緒に歌い礼拝を守ることが出来ている。

さらに百人町教会の礼拝の大切な要素の一つに証詞についての応答があるが、録音を聴いた後各人が応答を買牧師にメールし、買牧師はそれをまた翌週ホームページで配信して下さり共有することが出来ている。高田馬場で集まって礼拝していたときより応答はずっと充実している。ホームページで配信しているので遠方に転居された方、他教会の方なども聴いて下さっているようだ。

週報は従来通り買牧師により作成され礼拝順序とともに報告、牧師日誌、会員日誌が掲載されており、ささやかだが日常の継承に役立っている。

録音による証詞配信は三週間にわたり保存されるので、自分の都合のつく時間に聴くこ

とが出来るといいう利点がある。また聴く場所を問わない。入院中に聴いていた人もいる。さらに繰り返し聴くことが出来る。ノートをとりながら何度も聴いたという熱心な仲間もいる。

教会活動について

コロナ禍収束の先が見えないなかZoomの利用が検討され、五月二十六日にZoomによる世話人会が試された。以後聖書研究会、ろば編集委員会、そしてこの間集中的に作業

日本基督教団(東京教区・北支区) 創立 1970年11月1日	
No.2602	
百人町教会週報	
2020年9月6日	
主日ネット礼拝順序	
証詞 買 晶淳	録音
奏楽	録音
前奏 Prelude	
讃美 Hymn	197番(あま土のひとみ)
使徒信条 B Apostles' Creed	93-4 1 B
献げ Offering	
報告 Report	
聖書 Scripture	申命記 6章 20-25節(申 29:1p)
証詞 Testimony	「百人町教会の記憶」
祈禱 Prayer	
讃美 Hymn	394番(信仰うけつぎ)
黙想 Meditation	
応答 Response	roba1970@purple.plala.or.jp

を行ったアンケート委員会、小冊子委員会もZoomで順調に開けた。また日曜日の午後月一回教会懇談会を開催、今後の礼拝について話したりしている。その他の日曜日午後は「お茶の間」と称し自由な会話を楽しんでいる。長い間会えない仲間の顔を見ることが出来る。懐かしく安心もし、慰められ元気も出る。

Zoomはとても便利だが、礼拝の録音配信同様、或いはそれ以上にネット環境を持たない仲間への配慮が必要だ。

応答から抜粋

・礼拝証詞・週報・讃美歌・先週の応答、今月初めてすべてを開くことが出来ました。皆様の応答も、一堂に会してはいませんが、いつもとは違うたくさんの声が聞けて、引きこもりの生活の息苦しさから解放されました。讃美歌名案ですね!!

・高田馬場での礼拝の再開の見通しが立たない不安のなか、こうして自宅礼拝ができることに感謝しています。これまで讃美歌はYouTubeで検索して一緒に歌っていましたが、今回、百人町の礼拝を録音した音声ファイルに感動しました。今日の証詞、「聖書は失敗談ばかりで、未来への答えはない。失敗談の中から答えのヒントを探す」というお話は、まさに、聖書の読み方のヒントですね。

・病院で迎えた三度目の礼拝、一回目はベッドの上で聴きましたが、昨日は机に向かって聴くことが出来ました。ノートに礼拝順序を書き写し、聖書を読み(昨日買先生は聖書を読まなかった)、証詞を聞きました。途中で昼食になって中断してしまいました。ネット礼拝の良いところ、何度でも聴くことが出来る感謝です。

・このコロナの時代にこそますます、共に生きることの大切さのメッセージ有難うございました。大阪の友人からも「ネットで五月三日、申命記二九章のお話、響きました。貴重一時間でした!」とメールが届きました。・今週は前奏に歌が入り、しかも「メサイア」

だとわかり驚きました。いつもうれいしい工夫をしてくださりありがとうございます。イザヤ書四〇章は、ユダヤ人たちのバビロン捕囚時代に書かれたものと知りました。先生は、「自分を知れ、何故バビロンへ連れてこられたのか考えよ」と言われました。私たちもコロナ禍の今、人間の傲慢さ、不寛容さなどに気づかされます。世界中これから困難な道が待っています。神が共にいてくださり、皆と共に未来を切り開いていく希望を持つのが慰めだと大きな励みになりました。

・何度も繰り返し、先生のお話を伺いました。特に障碍については、青学の学生の時、授業で障碍はその人の罪の為であるといわれて、納得できませんでした。先生のお話を伺って障碍は誰のせいでもなく、神の業を表すということを知り、心が晴れた気がしました。長い間、心の病と戦っている身としては、人として扱ってもらえるのはなんと素晴らしいことなのかと思えました。また繰り返しお話を伺って新しいことを学べるとよいと思っています。

・Z o m の応答を考えてくださりありがとうございます。久しぶりに皆様のお顔を拝見して、それだけで胸がいっぱい、満足してしまいました。家にいると母の様子を見たりして、なかなかオンタイムでお聞きできませんが、今日は早々と用意して、母にも頼んで時間を取りました。とても充実した気持ちです。皆様のお顔を拝見して声も聞けて、こ

なに心が満たされるとは驚きです。

・今日もネット礼拝の証詞をありがとうございます。前法務大臣夫妻の選挙違反による逮捕の事件について思っていることですが、定員二名の広島選挙区で、二名とも自民党員で占めたいためにムリをしたようで、ムリをさせた首謀者は安倍総裁なのに、悪いのは本人たちだけのようにしていることに怒っています。今日のお話を聞き、更に強く怒っています。初めてのZ o m参加で殆ど皆さんのお話を聞くだけでしたが、明日の「ろば」編集委員会の前に一寸でも経験させていただけでよかったです。

・今日のとこの読み方も、通り一遍の字句にとらわれた読み方でなく、ああそうなのか、そう読むのか、と大事な点に目を開くことが出来ました。耳があっても「聞く」耳がなければ何にもならない、いや害になることがわかりました。アメリカの白人警察官による黒人殺害事件は典型例、よくわかります。それにしても「きく」耳を持たない首相や大統領などが国の内外を問わずなんと多いことか、嘆く昨今ですが。改めて「聞く」耳を持つことを自分自身のこととしてとらえることが大事なことを学びました。

・来週のプロローグとしての聖書の旅、面白く参加させていただきました。礼拝後にはGoogle Earthも開いてみました。賈先生が実際に行かれたうでの説明でしたから本で知るよりずっと身近に感じられました。それに、

イエスとヨハネのいろいろな環境の違い、六人いたヘロデ、王と領主ときちんと分けてある聖書の記述など、目から鱗でした。

・今まで無意識に読み過ぎていました。ガリラヤ湖周辺と死海周辺の地形や自然の様子の違い、イエスが短い間にどれほど大変な距離を歩き来されたのか、さかのぼってマリアとヨセフがナザレからベツレヘムへと旅した道のりの長さやエジプトへの逃避など、どれほどの苦難があったかなど今回はいろいろ思う時間となり、改めて衝撃を受けました。また、ヘロデ王と息子たちの関係も何となくの思い込みが少しはつきりしました。長年その時々部分読みをして合点したつもりになっていたことを反省し、背景を学びつつ聖書を読むことの大切さを教えていただきました。聖書はまさに、その時代の場で生きて働いておられたイエスの物語であり、そこでともに愛し憧れ憎み病み喘ぎ苦しみながら暮らした、今と変わらぬ小さき人々の話なのだあと実感しました。来週の証詞が楽しみです。

・聖書には「荒野」という言葉がよく出てきます。それがどのように深い意味を持つのかを八月九日の証詞で学びました。ローマ統治下の人々も、当時の政治や宗教の腐敗を知るほどに不満がつのり新しい指導者を求めてよく荒野に行ったとお話でした。荒野にとどまり続けたヨハネと違ってイエスは町へ出て人々と共に行動したのだということに着目したお話は新鮮で心に響くものでした。

・今週から礼拝順序に「応答」を表記することにした。礼拝の中で一番の傑作は応答ではないかと思う。証詞は説教のような一方的な宣布ではない。人生のようにまだ進行中において、結論を出せないものである。だからこそ証詞には応答があつて初めて完成となる。証詞と応答をもつて礼拝で私たちのタペストリーを作っているのである。全体はどのようなものになるだろうか。このコロナ禍の時はきっと他とは異なる模様になっているはず。

・先生は「シボレス」という試し言葉は差別につながる、同じような言葉が関東大震災の時朝鮮の人々を日本人と区別するために使われたと言われました。小池都知事が「被害を受けたのは皆同じだから特別に追悼する必要はない」と言ったとすれば、それは巧妙な歴史のすり替えだと思えます。デマによって朝鮮人が沢山殺されたという事実は消すことはできません。

・興味深かったのはユダヤの教育のあり方。子供が質問することから始まる、というのは素晴らしいです。質問ができるようになるにはそれなりの知識が必要だというのは前提としても、ともかく一方的に教えがちな我が国の教育に比べて教わる側の自立が要求されますね。質問することで自分の理解度も明確になるし、さらに内容を深めることが出来ます。大事なことです。もう一つは、「幸い」について。幸せとはひと味違う幸いという言葉の意味を改めて考えました。

Zoom聖書研究会

山崎 麻里子

今年の初めから世界を混乱と恐怖の極みに陥れたアレのせいで、百人町教会の主日礼拝や聖書研究会、その他の教会活動も当分、開催困難となった。発生当初、世界は「武漢シヨック」に震撼したものだ。もう少し致死率が高ければ映画『コンテイジョン』(二〇一一年)を地で行くことになっただろう。

私が「アレ」と呼ぶのはあの言葉はあまり聞きたくないからだ。毎日アレのせいで苦悩する日々が続く、私が所属する通所介護事業所では、ちよつとした油断がご利用者様の命に関わる事は言うに及ばず、事業所の存続さえも左右してしまうことになる。アレ対策は私たち介護職の重要な日常業務となった。もしも一職員がアレを介護施設に持ち込んだならその責任は甚大だろう。ご利用者様が持ち込んだ場合とは、全く事情が違って来る。

買牧師のひと方ならぬ御尽力の結果、「Zoom」というビデオ会議システムを使った聖書研究会が今年六月の第三水曜日から再開できる運びになった。私はこれに参加させて頂いている。今では、会社の会議や在宅勤務での打合せ、大学の講義や講演会さえも専らこのZoomで行われているのだそうだ。参加者はディスプレイの中のさらに小さくて四角い枠の中にそれぞれ表示される。勿論、ご尊顔を披露したくない方等の為には、ビデオを切断してお気に入りの静止画像や無地を表示

する配慮もある。

聖書研究会は民数記二八章から再開出来ることになった。参加してみると直ぐに慣れて、殆どの方がZoom越しでの会話を楽しめるようになった。手許にパソコンかスマホ等の情報端末があれば、どんな遠隔地にいても、誰でも参加可能な聖研である。私も自宅に居ながらにして、聖書研究会に参加できるのだから随分と楽になった。本来、時間や距離という物理的な障壁を乗り越えるより情報技術の壁を乗り越える方が易しい事なのかも知れない。みんなと直接会えないのは寂しいが新しい聖書研究会でも別の楽しみ方が徐々に増えて来ることだろう。勿論一方で、そうした情報技術に追従困難な方々、そうした生活様式とは全く相容れない方々もいらつしやることだろうが、それはその方の価値観や生き方の問題だろう、と思う。

この先、どんなに樂觀的に見ても、何年間かは、アレのせいで以前の様な素朴で牧歌的な暮らしは望めないし、あと何年後に人前でマスクを外せるようになるのか見当も付かない。今後、人々はアレと共に生きるのだ。黙々と日夜、感染症対策の徹底に追われている多くの者たちには、あの言葉を連発する人の言葉はちよつとキツイし、ご批判は甘受するが、私たちのやっている日常業務もつづきに見て欲しい。現実を嘆いて誰かの失策を責めるより、明日のために努力して時代に適応する方が余程潔い。

百人町教会五〇年に寄せて

家庭集会について

坂 百合子

家庭集会は、笹淵いづみさんの呼びかけで一九七五年七月に始まり、花小金井の岩井さんのお宅、信朋塾（美竹教会の有志が作った学生塾）にいた小池佐枝子さん宅、権田さん宅、神崎さん宅、阿蘇先生宅、居林さん宅、そして井上輝子さん宅でも開いた。時々、あまり教会へ来られない教会員の家を家庭訪問することもあった。最近では牧師館で行っている。指導はこの間大庭昭博さん、池田春善さん、佐々木迪淳さん、金井美彦さん、阿蘇先生、そして今は賈先生に移った。

定期的になったのが七八年四月。八七年頃は午前十時半に聖書研究（阿蘇先生が担当）、読書レポート、昼食。本は自選、他選の本をテーマも決めずに読んだ。最近では、メンバーの人数も少なくなり、読書の代わりにDVD鑑賞をすることもある。賈先生になり、聖書を毎月交代でメンバーが担当して読む。一ヶ月経つと前の箇所の内容を忘れてしまうが、話を聞いてつながりが分かり、聖書の面白さが分かった。

メンバーの自宅で家庭集会を開いたが、地元の人たちの参加は少なかった。阿蘇先生がPTAの会長をしていた時、関係者が数人参加し賑やかで楽しかった。その中の一人が井上輝子さん。井上さん宅では、四階建てのマシオンに建て替えた四階にある広い台所で、

大きな鍋で煮物をおいしく食べたのを思い出す。平日に集まるので男性の参加者が少なく、定着しなかったのが残念である。信朋塾で数年間開いた時、小池佐枝子さんの友人の長谷川まつ子さんが参加して、現在まで百人町教会メンバーとして活躍している。

皆がそれぞれの生活のことを話し、特に私にとつて娘の中学、高校の育ち盛りの気持ちを持って余し悩んでいる時、気持ちを聞いてくれる仲間は私の心の安らぎとなった。また、読んでいる本をテーブルの上に置いておくと娘もいつの間にか読んでくれ、お互いの会話のきっかけにもなり良かったと思っている。本を読むだけでなく、遠足にたびたび行った。

八〇年に『田中正造の生涯』を読んで、足尾銅山訪問、田中正造の遺跡巡り、その帰路温泉へ。八三年映画『東京裁判』鑑賞、八四年北富士忍草母の会を訪問、八七年北支区婦人部のキムチ講習会に合流参加。その時の講師は、当時姉妹教会の蚕室中央教会の鄭救恩さん（当時家族で日本に滞在）。また深大寺に行き、おいしいそばを食べ、その後植物園を訪れたこともあった。

また、キリスト教伝道のため来日し近江兄弟社を設立し、留学から帰国した一柳満喜子と結婚したW・メレス・ヴォーリズ（建築家）の生涯を書いた『負けんとき』という本を読み、ヴォーリズの建築を訪ねて近江八幡市を訪れたことは特に印象に残っている。その前に小浜の明通寺に行つて、中島哲演さんの

お話を聞いた。翌日は、敦賀原発を遠くに眺め、車の中で原発の話聞いた。この時は参加者が多かったので中型バスを借り、賈先生と菅谷さんの運転で、充実した二泊三日の旅となった。

現在は牧師館で十二時から昼食、一時から二時までは担当者が聖書の発表をし、二時から三時までは担当者が読んだ本の感想を発表し、それぞれ意見などを交換する。ご飯とみそ汁は賈先生が用意してくださり、おかずは持ち寄り、デザートは家庭集会の費用で用意する。秋には、雨宮さんの山梨の親戚の方から、おいしいブドウを送ってもらい、普段食べられないようなみごとなブドウが並ぶので楽しみである。

最近が高齢化に伴いメンバーが少なくなり、会の内容や進め方を検討しようと思つている。自分だったら選んで読むこともない新しい本の出会いもあり、嬉しく心が温かくなることもあった。半面、忙しかったり悩み事などがあつたりすると、読書していてもうわの空で頭に入つてこない。そんな時みんなの話を聞くとなんとなく落ち着く。本が手に入らない時や、高価な本の時は何冊かを回して読み、また図書館で借りて読むこともあった。本を選ぶ時、一冊千円くらいとした。

阿蘇先生から賈先生に代わつても何の問題もなく家庭集会は続いた。賈先生は聖書や本に対しての読解力がすばらしい。四〇数年も続き、参加できたことを嬉しく思う。

図書紹介

『知の旅は終わらない』

— 僕が三万冊を読み百冊を書いて

— 考えてきたこと —

立花隆著・文春新書

本書は二〇二〇年一月発行。今年八〇歳になった著者の知的好奇心は衰えを知らないようである。

立花隆の両親は無教会派のキリスト教徒だった。中学時代の著者は陸上競技に熱中し全国レベルの記録保持者だったというのは意外な事実。物理学者の湯川秀樹に憧れ理系に進学するつもりだったが、高校の時「色弱だから理系は無理」と言われ茫然自失の末、東大仏文科に入ったのは一九五九年。当然のように六〇年安保闘争に関わっていき原水禁運動にもめりこむ。

世界に原水禁運動をアピールするため、渡航が今ほど自由ではなかった時代に同級生と二人でロンドンの「国際学生青年核軍縮会議」に参加するまでの苦労話が面白い。

初めての海外体験で得たものは大きかった。ヨーロッパの平和運動には、個人の信念や信仰に支えられた永く厚い歴史の層があることを学び、日本の運動はどこかおかしいと感じて、帰国後は学生運動から離れる。

卒業後、文芸春秋に入社するが二年半でやめて哲学科に学士入学する。

その後「田中角栄研究—その金脈と人脈—」によりジャーナリストとしての地位を得たが、

これは本来やりたい仕事ではなかった。ただ、「肉体を殺すことができても魂を殺すことができない者を恐れるな」と言っていた母の言葉が心に焼き付き、世俗権力と、その前にひれ伏す人間たちに負けてたまるかという気持ちで闘ったと述べている。

日本の現代史における天皇制についての考察をまとめたという著書も読んでみたいと思っ一冊である。著者の好奇心は多岐にわたる。「宇宙からの帰還」では飛行後の宇宙飛行士の内的変化に関心を持ってインタビューを重ねる。美術、音楽にも造詣が深く、古代文明の遺跡巡りの旅も魅力的。印象的なのはギリシャ・アトス半島にある修道院共和国を訪ねる場面である。千年以上前に東ローマ帝国皇帝によって認められた自治区が現存しているとのこと。

二〇〇七年、自身の癌手術を機にその方面への探求心も増し著書も多い。現在は、ある医師から学んだ「人間はみな死ぬ力を持っている。死ぬまでちゃんと生きることこそ癌を克服することではないか」という気持で、死ぬのが怖くなくなったと言っている。

この本は著者の個人史であると共に、同世代に近い者にとっては自分の生きてきた道を振り返ってもう一度考えるヒントを与えてくれるものではないかと思う。「読むこと」に向かう著者のエネルギーのすさまじさに感嘆しつつ、わかりやすい文章によって楽しく読める一冊である。

(榎本 征子)

ろばのせなか

コロナ禍がこんなに長く続くとは思いませんでした。この難しい状況の中で、本誌で示しましたように百人町教会は、賈先生の深い配慮により礼拝を一回も休むことなく続けることが出来ています。感謝です。応答の抜粋からもわかるように、この間、私たちは聖書の深い読みを教えられ、いくつもの新しい発見をしてきました。

恵まれた環境にありながらネット礼拝の便利さとともに危うさも感じます。「関係性が希釈されている」という声も聞こえます。教会の持つ本質的な「共にいる」ということがどうしても希薄になり、共にいるつもりになっしてしまいます。百人町教会が大切にしている共に食事をするということが出来ていない不足感も大きいです。

山崎麻里子さんが働くデイサービスでは利用者が減り運営が難しく今年いっぱい閉鎖が決まっているそうです。介護が必要な方たちの居場所がなくなり、そこで働いている人もその場をなくす現実があります。コロナと共存していかなければならない難しさをつくづく感じます。

(小池 恵子)

お知らせ

百人町教会創立五〇周年記念小冊子

— 十一月一日発行予定